

## 「ふるさと春日井学」研究フォーラム

### Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

## 会報

NO. 41

2016.6.25 発行

編集責任：河地 清

[Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp](mailto:Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp)

### 第41回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『町に眠る詩～アートを活かした「まちづくり」』

平成28年6月5日（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）において「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ『町に眠る詩～アートを活かした『まちづくり』』で開催しました。詩人村田仁（じん）氏による「町に眠る詩～アートを活かした『まちづくり』」をテーマに、創造的なまちづくりの取り組みを紹介していただきました。村田仁氏は1979年生まれ、三重県の出身。名古屋芸術大学大学院同時代表現研究科修了。現 同大学美術学部絵画科非常勤講師。1998年より詩人として活動。金沢21世紀美術館、三重県美術館を舞台に現代アートとしての創作詩を発表。小牧市美術鑑賞講座（「絵画へラブレター」）や詩人小松亮一氏とのコラボ朗読をなどの活動を行っておられます。4人、5人、6人のアーティストの活動を続けておられます。氏の作品ジャンルは現代美術。一つの表現だけでなく、色々な分野を横断して取り組むのが特徴です。

市民17名の参加がありました。講演後、アートとまちづくりの関係性について参加者からの意見、質問がありました。



## -発表要旨-

I.会場では「となりの人々・現代美術 in 春日井」(あいちトリエンナーレ地域展開事業～あいちアートプログラム～、2016.3.18 発行)が配布された。このカタログの中に、村田仁氏の取り組みが載せられている。1 つは、ワークショップ名「蛙の歌詩カード-自由な詩をつくる-」が紹介されている。2015年11月18・25日に行ったもの。坂下小学校の4年生86人が派遣アーティスト村田仁氏の体験授業を受けた。道風と蛙の逸話と童謡「かえるのうた」の紹介をした後、①自分が生まれてはじめて発した言葉②自分のまちの誰かが蛙に出会った場面③蛙は何と歌っているのか…の3つの場面を想像し、言葉を集めてこさせた。それを声に出して読み上げ、順番をかえたり、言い換えたりさせた。「かえるのうた」の輪唱にちなんだ言葉の繰り返しや、縦書き、消しゴムを使わないなどのルールを加えて詩を完成させた。これを輪唱のように読み上げていった。教室中に響きわたる心地よい生の詩の世界を体験した。村田仁氏は「詩を書くことは、自分の言葉に向き合う、孤独な行為です。しかし実は、言葉は自分が住む家や町から生まれています。個々の言葉を尊重しあう一体感が教室におこりました。」とコメントしている。

児童は「自分の言った言葉で詩ができるなんてびっくりしました。」「詩の意味が前よりもよく分かった気がしたからよかったです。」とアンケートで答えている。

II.「となりの人々・現代美術 in 春日井」の会場は文化フォーラム春日井のメイン会場以外にも、「まちなか会場」として丸十ビル、元薬局、蔵(丸十書店の1980年代に事務所として利用)も会場とした。村田仁氏がこの「蔵」を会場に展示を企画した。「蛙の国会、人の町」と名付けた。サウンドインスタレーションと看板で、蔵の中に入らずに鑑賞する音のインスタレーションを仕組んだ。「蔵の中で蛙がわいわい騒いでいることを想像しましょう」「道風がもしここに来ていれば、蛙に気づくかしら?」と、想像の世界を提供する。蔵の中に入れないのは、未耐震化の建物だからだ。蔵の中から蛙の鳴き声のごとき音が聞こえてくる。それに混じり、子どもの朗読する詩も聴こえてくる。蔵の扉は閉められている。観音開き扉の下に朽ちた隙間があり、ここから光と音が漏れる。正面の扉右手に「蛙の国会、人の町」の詩と東側の壁に掲示板には坂下小の児童の詩(訂正跡の残る「蛙の歌 詩カード」)が張られている。

III.町中アートの他所の例をスライドで紹介していただいた。矢場町の公園で椅子に座る男女の青年像があるが、これは従来型の作品だ。越後妻有(つまり)大地の「芸術祭の里」は現代アートの成功例である。詩にして文字を吊るしている。そこにしかないもの、そこに行かなくては意味のないアートだ。香川県坂出市の「人工の地層と人」は日本初の構造建築物をアートに仕立てた。こういうものを下敷きに「となりの人々」が繋がっている。勝手な想

像を加えることで、全く新しい価値をつくる試みをしてきた。また、「町に眠る詩」「おじいさんに会いに行く、冬。」「あしたの郊外」などの詩を紹介していただいた。

今回の発表は、**愛知トリビエンナーレ地域展開事業**がこの春日井の地で行われたことをあらためて紹介していただいたことと、その中で、村田仁という現代美術作家・詩人が試みた「**アートを活かした町づくり**」という新しい切口に接する機会を与えてくれたものとなった。村田仁氏を紹介いただいたのはこのキュレーター(学芸員、展覧会の企画・構成・運営の専門家)を務められた**鳥羽都子**(公益財団法人**かすがい市民文化財団**)さんで、本来は彼女の講演を受けるはずであった。他市への急な転勤で、講師変更の通知がないまま参加された方々にお詫びします。

(記録：塚田 忠雄)



会場として使用された(鳥居松町下街道沿いにある土蔵)

## 会員消息欄

**野田淑人氏**(本会理事)は、永年の地方自治功勞により『旭日双光章』の叙勲を受けられました。  
おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

## OPINION

### 『ふるさと春日井「まちづくり」の風景』

— 「文化・芸術」を活かした「地域活性化」とは—

「地域活性化」という用語は本来経済的な活性化を念頭において使用されてきた言葉です。従って「文化」「芸術」といったジャンルにはなじまない言葉として理解されてきました。今日もそう思っている人たちは多いと思います。「地域活性化」は経済振興の問題であり、経済の振興と成長が前提での事柄であると言われてきましたし、経済の活性化なくして何の「文化」「芸術」であるか、との意識は今日的社会の中では、極めて普遍的な考え方であり誰も否定はしていません。なぜならば、資本主義経済社会の枠組みの中では、経済的価値のみが社会的価値であり、資本、資産、貨幣のみが人間生活の価値尺度の原則であるとき

れてきたわけですから、本来の経済活動以外の「文化」「芸術」との関係性には違和感を覚えるのは自然なことですし、社会生活の通念として広く意識されているところです。

しかし、こうした経済原理を科学的に分析した K. H. Marx (1818~1883) と同時代人である、J. Ruskin (1819~1900) は、人間社会の中における価値は経済的価値(市場価値)だけではなく、「文化」「芸術」にも人間生活の中で享受できる「価値」(実効的価値)があり、その価値の中にある創造的価値こそが人間の生活を豊かにしてゆく一つの手段であることを主張し、人間は、そうした価値ある「文化」「芸術」を受容する能力を養うことによって生活の豊かさを獲得することができるのであると述べています。今から約 100 年以上も前のことです。この時代ラスキンの考えは問題にされませんでしたし、社会には受け入れられませんでした。しかし、現在は「文化経済学」の基本的原理となっている考えです。

そこで、今日を振り返ってみますと、経済至上主義、市場原理主義、強欲資本主義といわれる社会現象があります。一方「地域活性化」「地域再生」「地方創生」「まちづくり」と言われる社会にもなりました。さらにもう一方では、少子化、地方消滅、格差社会、デフレ経済とネガティブな社会構造と閉塞感さえ漂う社会の状況もあります。「地域活性化」はこうした現実を乗り越えて行く課題でもあるのです。問題は、どのような方法があるかです。結論的には、これといった特効薬はないといった状況だと思います。それを決める決め手は今の社会を構成している人間のなんとかしようという熱い思いの「意識」と従来型の「価値観」ではなく、創造的「価値観」を醸成することではないかと思えて仕方がないのです。どのような「意識」でどのような「価値観」で「地域活性化」「地域再生」を行ってゆくのかが今日問われているのではないのでしょうか。私たちの言う「ふるさと意識」は問題解決のキーワードとなるものと思っています。こうした意識をもった「ひと」と「ひと」との関係が「地域活性化」の原動力にならなければならないと思っています。

41 回「ふるさと春日井学」研究フォーラム「町に眠る詩～アートを活かした『まちづくり』」での講演内容は、「地域活性化」に対する一つの価値観を示すものとして「まちづくり」の視点から見たときに、従来までの、経済中心の発想から入るのではなく、人間の精神的内面にある創造的価値を引き出す方法によって人々の地域への愛着や誇りを掘り起こそうと試みられる新しい発想の「地域活性化」へのアプローチとして注目される発表でした。

地域の人々が愛着と誇りをもち、アイデンティティーをもった地域づくり、「地域活性化」をしてゆく条件は、身の周りに多くあることに気が付きその魅力と特色を活かした「まちづくり」をすることの具体的な事例とあってよいでしょう。

ここで、最近の先行実践例と先行研究論文を紹介しておきたいと思います。

調査研究論文『アートによる地域活性化～新たな地域経済創出への方法論として～』(高知工科大学大学院起業家コース教授 平野 真)平成 23 年 12 月(「四国の大学と四国経済連合会との連携による四国学」所収)は、アートを媒体として、新しい経営資源を創出しそれを地域経済振興と連結しながら成果をあげた幾つかの実践例を紹介しつつ、アートによる「地域活性化」の多面的効果を検証しています。事例として、新潟妻有の「大地の芸術祭」、瀬戸内国際芸

術祭」、バレンシア（スペイン）の門戸開放運動、高知県黒潮町の砂浜美術館、東京日本橋馬喰町のCET運動、徳島県神山町のアーティスト・イン・レジデンスなどを紹介しています。これらの調査と分析を通じて、アートを媒体とした活動や事業は、地域住民の自信回復、郷土愛的連帯感の確認などをはじめとした精神的な活性化に寄与したことが知見出来たとしています。さらに経済的効果へも波及しておりその仕組み作りと産官民の連携の重要性や、住民とのコンセンサス作りが重要であることが観察されたとしています。最後に、「地域活性化」の活動は、要件が整うのを待つのではなく、まず始めるという「意志」が大切であると結んでいます。以上はあくまでも、参考事例にすぎません。わが「ふるさと春日井」という地域の活性化にそっくり当てはまるものではないことは言うまでもありませんが、「まず始めるという「意志」が大切」という言葉はどの地域にも共通したセオリーではないかと思いました。「書のまち春日井」を文化・芸術の柱として全国に発信しているこの地域としては、「文化・芸術」による「地域活性化」の参考事例として研究する価値があるのではないかと思います。本会が今日まで発信した、「書のまち春日井」に関するフォーラムを下記にまとめてみました。願わくば、こうしたささやかな活動が「地域活性化」の万分の一助にでもなればと願うものであります。

#### 「書のまち春日井」に関する「研究フォーラム」の一覧（敬称略）

2013. 3	「小野道風」生誕伝説を再評価－根拠解明される－	本会副会長 塚田忠雄
2013. 10	「小野道風」－歴史の記憶と伝承－「松河戸誌研究会」の歩み	松河戸誌研究会（長谷川正巳、岡嶋博）
	「小野道風」春日井誕生説を考える	本会副会長 塚田忠雄
2014. 2	「ふるさとかすがいの特色ある文化の再発見」－書道文化の振興と地域の活性化－	書家 安達柏亭
2014. 3	「書のまち春日井」を紐解く－書のまち春日井を支えた人々－	書家 中村立強
2014. 12	「書のまち春日井」の書写教育の展望と課題	市立小野小学校校長 宮田健一
2015. 2	小野道風春日井生誕説の検証	本会副会長 塚田忠雄
2015. 4	「書のまち春日井」と空海－景教碑を中心に－	福音キリスト教会牧師 川口一彦
2015. 6	ふるさと春日井の特色ある文化－書の魅力Ⅰ－	春日井市道風記念館館長 落合 哲
2015. 7	ふるさと春日井の特色ある文化－書の魅力Ⅱ	書家 原田凍谷
2015. 8	ふるさと春日井の特色ある文化－書の魅力Ⅲ	書家 安達柏亭
2013. 8. 28	小野道風の源流を訪ねる バスツアー巡検	「ふるさと春日井学」研究フォーラム
2015. 9. 25	小野道風廟・道風死所「雲居寺」を訪ねる バスツアー巡検	「ふるさと春日井学」研究フォーラム
会報 9	2013. 10. 20 「OPINION」 「書のまち春日井」考	本会会長 河地 清
会報 22	2014. 12. 28 「OPINION」 脈々と伝えられ継承されている「道風の風景」	本会会長 河地 清
会報 29	2015. 7. 31 「OPINION」 ふるさと春日井「書の風景」－行政の取り組み－	本会会長 河地 清
会報 30	2015. 8. 31 「OPINION」 ふるさと春日井「書の風景」－「まちづくり」の課題－	本会会長 河地 清
会報 33	2015. 8. 31 「OPINION」 ふるさと春日井「書の風景」－「まちづくり」を考える－	本会会長 河地 清
会報 35	2016. 1. 4 「OPINION」 ふるさと春日井「書の風景」－書の看板でまちづくり－	本会会長 河地 清
会報 36	2016. 1. 29 「OPINION」 ふるさと春日井「書の風景」－市議会一般質問（山田哲也市議）	本会会長 河地 清

次回

## 第 43 回

# 「ふるさと春日井学」研究フォーラムの ご案内

「ふるさと春日井」の魅力を再発見する F O R U M

「ふるさと意識なくして地域の活性化なし」

「地域活性化・まちづくりの応援メッセージ」

**Forum for Furusato Kasugai Studies**

**Forum テーマ：**

『コミュニティービジネスで「地域活性化」』

ーアフタースクール問題と取り組む社会起業家の実践報告ー

日 時：平成 28 年 8 月 7 日（日） 午後 1 時 3 0 分～3 時 3 0 分

場 所：市民活動支援センター（ささえ愛センター）八幡小学校西側

TEL：0568-56-1943（〒486-0837 春日井市春見町 3 番地）

講 師：京 邦治 氏（NPO 法人 くんばんハウス 理事長）

フォーラム内容：地域を活性化してゆく方法は、多様で、多方面にわたります。

待機児童問題をコミュニティービジネスの手法で地域活性化の成果を  
上げている起業家の実践報告です。・・・ 後は FORUM で

(非会員の方のみ資料代 500 円徴収させていただきます。)

※事務局：〒486-0825 春日井市中央通り 2-9 TEL・FAX0568-82-5973 会長 河地 清

**mail address:**kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学検索 



